平成２１年２月 23 日

北アルプス広域連合
牛越　徹　連合長　殿

白馬村新ごみ処理施設を考える連絡協議会
会長　宮田　温巳

「広域の枠組みの維持」発言についての公開質問状

あなたは、大町市議会の全員協議会(2 月１３日)で、「飯森は断念したが、広域の枠組みは断念していない」と発言されました。さらに 17 日の記者会見では、「広域の枠組みを前提とするが、多方面からの検討を排除はしない」(18 日付けの「朝日」)と、幾分前進ともとれる発言をしています。

さらにまた、18 日に閉会した北アルプス広域連合議会 2 月定例会で連合長は、次のように発言したとされています――、「これまで広域連合で推進してきたごみ処理広域化の経緯を十分踏まえる」「広域化の枠組みも含め関係市村、議会と十分協議し、慎重かつ敏速に方向を示したい」(19 日付けの「信濃毎日」)。

つまり、「広域の枠組みは維持する」とする姿勢は崩していないのです。これら一連の発言は、アンケート以後の建設計画の進め方に大きな影響を与えるものです。場合によっては、アンケート以前となんら変わらない進め方となる可能性があります。そこで以下、連合長の発言に関する私どもの見解と連合長への質問を併記します。十分検討してご回答ください。

１）「飯森建設」の計画は、広域化政策の一環として推し進められて来たものです。したがって、広域化政策と「飯森建設」は、切り離して考えることはできません。その建設計画が住民によって否定されたのです。そのことは、今回のゴミ処理施設建設計画の基本である「広域化」も否定されたと考えるのが論理的帰結です。この点について、どのようにお考えですか。

２）　アンケートの結果が、「広域化」を含む建設計画そのものの全面的見直しを求めているこの段階での連合長の「広域化の枠組みの維持」発言は、次の政策に踏み込んだ発言として不当です。

連合長がまずなすべきことは、私どもが声明で求めた「反省」です。ほぼ 2 年間の政治的空白と混乱をもたらした原因をきちんと検証し、その責任をどう

取るのか、それを明確にすべきです。この点について、どのようにお考えですか。

３）「飯森建設」が否定されたことは、建設計画の従来の手法が否定されたことをも意味します。新しい手法として、私どもが声明で主張しているとおり、公募の住民を加えた「ごみ問題再生検討委員会」（仮称）を立ち上げ、その委員会に新たな計画の推進を委ねる考えはありませんか。ないのなら、どういう理由からですか。

以上の三つ質問に、2 週間を目途にご回答いただきたくお願いいたします。

以上